

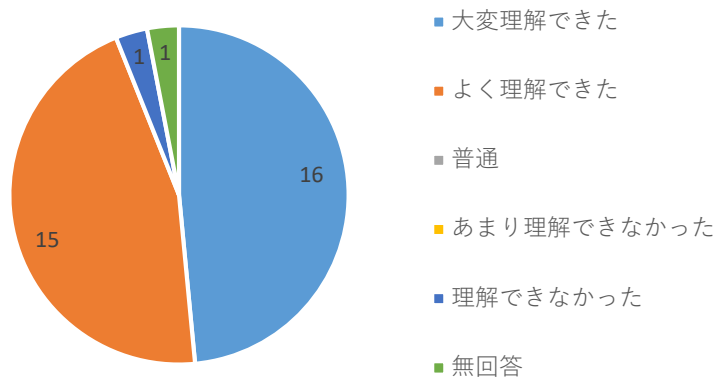
# 『市民公開講座』

## 発達障害のある学生が求める支援「見てわかる人」の世界を知ろう！

開催日：令和6年2月24日(土) 参加者64名 / アンケート回答45名

### 1. 全般的評価をお聞かせください

大変理解できた	16
よく理解できた	15
普通	—
あまり理解できなかった	—
理解できなかった	1
無回答	1
回答	33



### 2. 一番印象に残った内容はなんですか。

お子様の具体的な事例。私にも発達障害の子供がおり、日々悩みながら育児をしています。先輩ママとしてとても具体的な内容で大変勉強になるとともに、我が子が『資産』という事を忘れ、ネガティブな感情を持つ事が多い中『資産』という事を再確認させて頂きありがとうございました。

“親”の立場として語られたこと、越村さん自身周りの支援も大きかったのでしょうか？親としての気持ちを切り替えていかれたこと、そこへの気持ちを想像して涙がでました。

困っていることを理解すること。(しっかり聴いてあげること)視覚的構造化することを支援することで資産になる。その人に関心を持つこと。

視覚による情報提供や確認を行う重要性。ニーズの把握に視覚化と進捗確認。

越村先生のお子さんが卒業された学校のサポート面に関する事。担当する人が限られているのではなく、組織で認識している事。

チームアプローチにおける5つのサポートの関連性(連携の必要性)

情報の提示の仕方に工夫すると、不安感、困り感を軽減できる。問題が起きた時、支援を受ける方に原因を考える前に、こちらがズレていないか考える。

個別に支援をして頂けたという経験をお伺いでき未来に希望をいただきました。

具体的にとれる方法を説明していただいたので、とてもわかりやすかった。サポートがあれば本来の力を発揮できるというのがとても良いなと思いました。親からの話も印象に残っています。

視覚情報の提示と進捗確認(サポートできることを尋ねる)が大事。

支援の基本の構造化とサポートについては社会人的な立場としても指導の際などに役立つものとして非常に勉強になりました。

出している答えが間違っていると思うときは、こちら側の情報の渡し方が間違っているという事が印象的でした。できていることを褒め、励ますという事が苦手なので、求めることばかりでなく、本人にとってどこが目標なのか何が分からないのかをしっかりと提示することの大切さが分かりました。

シーツの色が変わるだけで、シーツのかけ方が分からなくなるとお聞きしてとても驚きました。

可視化と声掛け、興味をしめす。サポートの大切さ。

本人が何が困っているかなど、興味を持つことが大事だと思いました。「予定を視覚的に示す」自分自身も聴覚より視覚からの情報の方が記憶に残りやすく視覚からの情報を大事にしています。

合理的配慮と資産という視点での関係、チームで支援、発達障害を持つ方の困り事の具体例。

困りごとを理解していないという点で、どう対応していけばいいのか少し理解できた気がします。引継ぎシートについてもある程度のルールの確立が必要だと思いました。

身内に発達障害と診断されている小学生がいます。本人が元気よく過ごしていくためにも、ペアレントトレーニングのことが知ることができ、接するときに役立てたいと思いました。

## 2. 一番印象に残った内容はなんですか。

情報の提示の仕方の工夫一つでWIN-WINになる。生活面の困りごとが大変よく分かりました。

視覚的提示、進捗確認、本人からの聞き取りを行いたいと思いました。

適切な支援があれば優れた能力を発揮すること、こちらからの進捗確認が大切なこと組織にとって重要な人ということ。

「本人は困り事になっていない」こちらから関心を持つ声をかけることが大事アウトリーチの重要性

構造化することで課題に取り組みやすくなる。これは誰でも同じである。

一番困っているのは「本人」ではあるけれども、その困りに本人が気づいていないことが多いということ。発達障害の人たちが見ている世界について発達障害を持つ方の困り事の実例。

支援の基本の構造化(TEACCH)特に視覚的。合理的配慮が生む経済効果、興味を持つという魔法。

「どうなったら終わりなのか」を伝える。「どこで」「いつ」「何を」「どうやって」ということを伝えるが、「どうなったら終わりなのか」は以外と伝えられていないのではないかと振り返りました。

事例を交えてのお話でしたので、全体的に分かりやすく、心に残る内容ばかりでした。最後におっしゃったKさんが「気にかけてもらったことがうれしかった」というお話がある意味ショックでした。(そんなことがうれしかったんだ…と) “その他大勢”ではなく、一人ひとりの人間として接することみんな“誰かの大切な人”であると意識することが大事だと思いました。

「構造化」という概念がこれまでよりしっかり理解できました。実子の具体的な例をお話していただけたのは説得力がありました。

サポートのやり方次第で結果が大きく変わること。

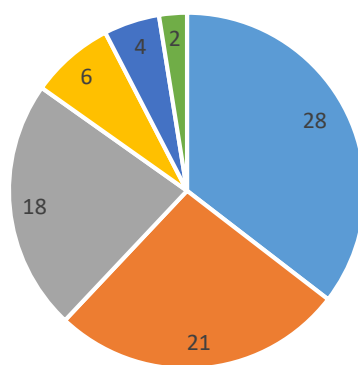
構造化など日常の業務で似通ったものが多く共感しました。資産という話も同様に共感できることが多かったです。捉え方接し方は常に考えていく必要があると思います。

発達障害者。本日は知的に問題のないご自身のお子さんの話を例に出されてとても分かりやすく話され、一番印象に残った内容は支援のポイントはスケジュールと視覚的構造化をするという事と、本人に興味をもつ魔法という言葉が印象的でした。

興味関心を持った支援者が伴奏することで、ご本人の能力がとても発揮できることはとても素晴らしいことだと思います。ご本人が一番困っているとおっしゃった言葉を忘れないようにして、大学にいる様々な困っている学生を見つけられるようにアンテナを高く張って、いろいろな学生と接しながら自分の人間力を高めていきたいと思っています。本日はとても感動しました。あたたかいお話をありがとうございました。

## 3. 今回の講座は、どのような目的でご参加されましたか？(複数回答)

知識を深める	28
仕事に役立つ	21
内容に興味があった	18
学ぶのが楽しい	6
その他	4
無回答	2
回答	79



- 知識を深める
- 仕事に役立つ
- 講座の内容に興味があった
- 学ぶのが楽しい
- その他
- 無回答

#### 4.その他、ご意見・ご感想をお聞かせください。

とてもいい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

発達障害があってもなくても興味を示して関わることでその子らしい人生をおくれる手助けができるんじゃないかと思いました。とても参考になりました。

合理的配慮が必要な学生が増えていく中どのように支援するのか、頭では理解していても実際対応する際のアプローチを工夫していく必要性を改めて感じました。まだまだ頭が固く適切な支援は難しい所もありますが、一人ひとりを見て、聞いてその学生に合った支援をその学生と共に考えていたらと感じました。

高校の通信制で働いていて大学に進学した生徒たちの未来に対して何ができるのか考える機会になりました。ありがとうございました。

自分を知る。早期動作としては、親・幼少期→現在までの困ってるところどういう支援をするとどのような効果があるかわかる。サポートシートが重要。親は直接子供に口出しするのではなく、サポートをみつけ子供とつなぐ。サポーターが不安にならないように(親が)サポーターをサポートすると良いように思います。親自身の行動力ネットワーク力・学習力・子に対する意欲が子供の支援に大きく影響すると感じます。

学生の皆さんの能力を引き出す支援と連携の重要性を学びました。貴重な講演をありがとうございました。

ご本人(学生さん)への寄り添い方を教えていただきました。心より感謝申し上げます。

保護者も正しく理解すること、合わせてこうした配慮が一般的に行われるように社会が成長していけば「困りごと」を抱える人を少なくしていくことができると思った。難しいけど…。

仕事としては支援できる。しかし、親子の関係になると感情が入り難しいというのは大変よくわかります。親になってみないとわからない苦悩です。今後もお身体にも気を付けてご活躍ください。本日はありがとうございました。

本日の内容を現場(職場)で活用させていただきます。とても学びの多い時間でした。

発達障害の方へ具体的な支援サポートの方法を学ぶ事ができました。

とても興味深い講演内容でした。教育に携わらせている中で、発達障害が明らかにあるのではないかと思う学生でも、学生自身は特に困っていないと話される学生がいる中で、でも「一番困っているのは本人」と聞き、本人と日常生活や学生生活を整理していき客観的事実を知って、必要な支援、環境を整えていく事が大事だと思いました。

大学の教員として学生に関わる中で、“気になる学生”が具体的にどんな事で困っていて、どうアプローチすればよいか日々悩んでいました。今日は明日からの学生への関わり方の大きなヒントを頂きました。

実際に経験されたことを交えながらお話いただき、具体的な支援方法について考えることができました。学校だけではなく社会でも取組考えていくことが必要だったと思います。ありがとうございました。

とても参考になり勉強になった講演でした。本日学んだ事は自分の知識として、また伝えられる部分は伝えていきたいと思っております。

高校生の支援を主にやっています。知的に問題のないため幼少児童で特に問題なくきていた生徒が、高校で困りを抱える生徒が出てくる事があります。年々増加しているようです。困りの自覚なく支援していくことが難しいケースが多く苦慮しています。

ADHDの生徒さん本人の事を興味をもってまず聞くことは大切だと感じました。そこから本人に合わせた支援を考えていきます。

年々支援が必要な学生が勤め先にも増えてきています。部署が学生に多く関わる所でもあるので、理解しようと日々勉強していますが、個性が皆あるので、こういう話をすればいいと思っていた学生が、その話し方を別の学生にすると途中で集中力が切れる…等。私ばかりが一人でどうしようかと考えがちなので、もっと部下達へもサポートしてもらおうと今回の講演会で思いました。

視覚的構造化を図るうえで、学生支援室や公的機関との連携が加え障害のある学生に対する就労支援に係るマニュアルや規定等の整備や支援体制の構築を加速させる必要があると再確認しました。

質疑応答によりさらに越村先生のお話もお伺いできたのでよかったです。

自覚を促す。(その人らしい個性を大切にするためにも)自己理解というところが一番難しいのではないかと思っています。機会があればそういうお話も聞かせていただければと思います。

# <講演会の様子>

